ふるさと わがまち わが地域

すながた

丹後の道標となる意気込みで気張る沙瀉

砂方(すながた)地区260611

世帯数 58世帯 人口 178人 (平成26年4月末) 前回(25/10)より 人口 ▲2人

世帯数 49世帯 人口 222人 (昭和30年10月1日)



★地区概要

砂方は、半農半漁で生活を営んでいます。丹後町間人より国道178号を網野方面(三津)へ向かって数分の所にあります。明治21年に「市町村制」、明治23年に「府県制」・「郡制」が発令され、3村(大間村・間人村・沙瀉村)が合併して間人村が成立しました。合併の1村が現在の砂方地区です。また、丹後國竹野郡誌(大正4年11月10日発行)の字体は「沙瀉村」が使ってありました。何時頃から今の「砂方」になったかはさだかでありません。



砂方集落センターは、地区の会議や行事の打ち合わせや慰労会に 盛んに利用されています。現在の緊急の課題は鳥獣被害(イノシシ 等)防止の対策です。



砂方漁港

古くから水視漁業の盛んな地でありますが、立地条件が悪く漸く昭和33年に沖防波堤、39年東防波堤、47年西防波堤が完成し、これと相俟って漁港の整備も逐次行われ、漁業形態を向上しつつ現在に至っています。(丹後町史より)

主な陸揚魚種は、サザエ(栄螺)、ウニ(海胆)、アワビ(鮑)、ワカメ(若布)、モズク (水雲)、ナマコ等です。また、水視を行っている船外機船は約10隻あります。







砂方海水浴場





澄切った海と<mark>鳴き砂の浜</mark>です。こじんまりとした海水浴場で、 プライベートビーチです。カップル、ファミリー向きです。

※沙(サ・シャ)ーすな

潟(せき・かた)

〇砂州によって外海から分離されてできる海岸の湖。潟湖(せきこ) 〇浦、入り江。湾。

〇遠浅の海岸で、潮が満ちると隠れ、引くと表われる所。干潟(ひがた)



幼児、保育園児、小学校児童の遊び場として、平成 13年度地域振興対策事業により完成しました。



祭神(稚産靈神、保食神、倉稲魂神) 明治4年村社となる。

境内には室神社、金刀比羅神社(祭神 大物主命) があります。

また、三柱神社は宮ノ谷古墳の上に立っています。

宮の谷古墳

現在は三柱神社境内となっているが、直径35 mの円墳で高さ3m葺 石埴輪の外部施設を備えた古墳です。



山門を進むと<mark>右手に</mark>三柱神社、 左手に遊び場があります。

戸倉山権現(十二社権現)

戸倉山(標高224m)は三津村・徳光村・砂方村の3村共有の山で、その頂上には戸倉大権現が祠祀(しし)されている。大昔出雲から分祀した記録があります。12社祠併祀とあり毎年新しく一社を造営、古宮は山上から投降する慣例で3村が3年交代でこの行事を行ったという。毎年3月8日祭典(湯立神事等)を行ったと聞くが維新以後すたれたものと思われる。社祠は昭和13年に建て替えられ、昭和38年度に修復。現在もやはりこの3地区で維持しています。(丹後町史より)

以後、年月を経て建物が老巧化して維持管理が難しい状態となり、 区民総意のもとに改築を行い、落成式を平成20年11月1日に執り 行いました。毎年ワカメ刈りの終了後と田植え終了後の6月の日曜日 に「とくらまつり」を開催しています。(昨年は6月2日の日曜日)

湯立場では<mark>湯立神事</mark>も執り行っています。また、地区によってそれぞれの思いを込めて「戸倉」の表示が違います。「徳楽山」(三津)・「徳良山」(徳光)と「戸倉山」(砂方)です。



砂方地区の住民を中心に結成し、平成19年に京都府地域カ再生プロジェクト支援事業の1つとして本格始動。

丹後の素材や伝統の食文化を活かした特産品づくりに励んでいる工房です。

特産品の製造・販売を通じて、地域の人々に多くの雇用を生み出し、地域に貢献することも大きな目標の1つです。

エ房スタッフ 3名

とくら工房

臨時スタッフ 地域の方々

取扱商品 「間人のへしこ」「間人の塩辛」 「サザエごはん」「とくらもち」等々









登山は楽々頂上に



徳光側登山口

非常に急で険しいとのことです。 現在は登山道の手入れをしてい ないとのことです。



とくらまつり(平成26年6月1日)

砂方地区の方々が戸倉 山において26年度のとく らまつりを行いました。



区民のみなさんに よる玉串奉納





戸倉山



湯立場御神体



区民館での会食



斎宮宮司を招い て今年の豊作を 祈願する神事が 厳かに行われまし た。





区民のみなさん



婦人会の方々も参加



写真提供:砂方区長